

## 19年度国保

3/8 神牛

# 標準保険料 全市町で増

## 県算定 引き上げ 全市町で増

自営業者や非正規社員らが加入する国民健康保険（国保）の2019年度保険料について県は、各市町が保険料決定の参考とする加入者一人当たりの標準保険料を算定し公表した。全市町で18年度の標準保険料を上回ったが、県によると現時点では実際の保険料引き上げの方針を示しているのは、福井市、永平寺町、越前町、おおい町の4市町のみ。他の13市町は基金や一般会計からの繰り入れなどで据え置く見通し。

（中野克規）

算定値は、各市町の医療費や加入者の所得水準などを反映し、各市町が保険者として集めるべき額を加入者数で割った平均。県国保広域化室によるところの世代をはじめとする加入者の高齢化で医療費の増加が見込まれることに加え、社会保険診療報酬支払基金からの交付金が減額される見通し

市町	19年度 1人当たり(円)		18年度 1人当たり(円)	
	市	町	市	町
福井	115,603		112,167	
あわら	119,085		101,567	
坂井	122,321		112,911	
大野	116,225		115,790	
山江	107,579		104,569	
前賀	121,479		107,137	
浜寺	117,424		107,905	
平野	116,231		115,120	
賀浜	108,605		100,849	
前田	120,363		108,834	
浜前	119,037		102,952	
浜田	111,271		102,220	
浜越	117,921		102,004	
池南	113,772		103,324	
美若	117,776		104,892	
おおい	104,296		99,968	
浜お	99,309		82,815	

県が算定した市町別の国民健康保険標準保険料で、一人当たりの額が増えた。最小は大野市の435円。県平均の算定値は年額11万円となり、18年度を平均。県国保広域化室によるところの世代をはじめとする加入者の高齢化で医療費の増加が見込まれることに加え、社会保険診療報酬支払基金からの交付金が減額される見通し

異なる。  
県は将来的に17市町の保険料を統一したい考え。一人当たりの標準保険料でみると、18年度最大で3万2975円あった市町間の差は、19年度には約1万円縮まり2万3012円となつた。